

はじめに

大学病院で教育にたずさわって20年以上が経ちました。昨年、これまで学生や研修医に指導の際に話してきた内容をまとめ、電子書籍（皮膚科への一歩）として公開しました。今回、この電子書籍に図と実践的なスキルを加えて発展させ、皮膚診療のエッセンスが詰まった1冊としました。

本書ではまず学生や研修医向けに、「問診」「皮疹の所見のとり方（トレーニング法）」「プレゼンテーションのしかた」について取り上げ、次に専門医取得前の先生向けに、「皮膚（爪、毛を含む）や粘膜病変の診察方法」「写真撮影」「病理検査」「ダーモスコピーや真菌検査やアレルギー検査」「外用療法」「創傷処置や手術」「学会発表の準備や論文の作成法」について解説しています。また、付録として、「保険診療」「患者が理解しやすい説明方法」「スキンケア」「おすすめのWebサイト」についても触れました。

皮膚疾患の多くはプライマリケア領域で扱う common disease です。本書では皮膚疾患を診療する際に役立つ実践的かつ即効性のあるスキルやコツを紹介していますので、皮膚科を専門としない先生方にもご利用いただけるのではないかと考えています。

本書の作成にあたっては、ガイドラインやWebサイト、論文、既存の教科書などを参考にしましたが、基本的には自分が執筆時点で一番よいと思うことを個人的な経験に基づいて書きました。したがって、公的なガイドラインや教科書の記述と異なる部分があります。あくまでも1人の皮膚科医の考えとしてとらえていただけたらと思います。ご意見をお待ちしております。

本書の内容は最低限必要な事項のみに限定しました。したがって不十分な記述も少なからずあります。日本には優れた皮膚科の教科書がたくさんあります。本書はこれらの教科書を読む前の入門編として位置付けています。さらにスキルを上げるためには、ぜひ各Lecture末の参考図書やWebサイトを参照してください。なお、筆者のブログ「うはら皮膚科」からもいくつか雑文をピックアップし、メモとして載せました。少しでも参考になれば幸いです。

本書の作成にあたっては多くの方にご協力いただきました。写真を提供してくださった宮嶋 敦先生（諏訪赤十字病院）、福澤正男先生（伊那中央病院）、内容についてご助言いただいた林 宏一先生（信州大学）、古澤真紀さん、寺口裕一さん（信州大学医学部附属病院医事課）、私のアイデアを具体化してくれた羊土社の嶋田達哉さん、杉田真以子さんに感謝します。病理診断については、斎田俊明信州大学名誉教授から長年にわたってご指導いただいた内容が多くを占めています。また、信州大学や県内外の先輩方、同僚、後輩、研修医や学生達から教わった事柄も少なくありません。西山茂夫北里大学名誉教授をはじめ尊敬する先輩方のお言葉も引用しましたが、誤解や曲解、内容の不備などがあればすべて著者の責任によるものです。

本書が皮膚診療の楽しさを知るきっかけになることを願っています。

2013年10月

信州大学医学部皮膚科
宇原 久